尾張旭市立城山小学校だより 第11号　　令和８年2月25日発行

風と緑と太陽

子供たちに必要な力

校長 野田 恵美

6年生が「城山卒業プロジェクト」として①奉仕作業②文集③異学年交流④学年活動に分かれ、自分たちで活動を企画・運営しています。それぞれの活動を意欲的に進める姿はとても頼もしいです。そんな中、現在、文集チームの最終原稿チェックを行っています。作文の内容は小学校生活で思い出に残っていること、〇年後の自分への手紙、将来の夢等からテーマを選んでいるようです。どの文章にも筆者の個性や思いが表れており、実に興味深いです。中でも、「令和の時代だな、キャリア教育で学んだことが生きているな」と思うのは、将来について書いている職業が多種多様であることです。今の自分の興味のあることにつながっている場合もあれば、そんな職業をどこで知ったのか?と思うようなものもあります。そしてその職業について、どのようにステップアップしていくのか、どんな仕事をしたいか、などとても具体的にイメージしており、感心しました。

キャリア教育についてはカリキュラムの中にも位置付けられていますし、今年の6年生は積極的に多くの職業の方の話を聞く機会を設けてきました。そうした取組をきちんと受け止め、自分の将来について真剣に考える子供たちは本当に素敵です。

今の子供たちは周囲に情報が多くあふれており、ICT機器を使って手軽に調べることができます。専門的な職種についての動画や画像、コメントなども多く、イメージももちやすいのでしょう。将来の職業選択の幅が広がります。また、先日の学校公開でも各学年でICT機器を活用する姿をご覧いただけたと思います。

一方で「情報が多い、選ぶ幅が広い」が故に、情報に振り回されてしまう危険性も秘めています。例えば、将来の仕事について、「短い時間で収入の高い仕事もある」という情報があったとします。私たち大人は「いや待て、そんなうまい話は注意が必要だ」と情報源を調べたり、違う視点で考えたりしますが、子供たちは大人と同じようにはできない可能性もあります。

教育活動には、子供たちの調べる力やまとめる力を伸ばすのと同時に選択する力、判断する力、多角的に見る力なども伸ばしていこうという目標があります。情報モラルの観点でも同じ力が必要です。さらに今の子供たちは今後、情報を得る側だけでなく、情報を発信する側にもなります。

先に行われたオリンピック競技の紹介や選手の陰の努力など、SNSや動画配信が有効に働き、良いニュースとなる場合もあれば、子供たちが悲しい事件にまきこまれてしまったり、理解に苦しむような事件を起こしてしまったりしたニュースもあります。

文部科学省では ICT 機器を鉛筆やノートと同じように日常の学習ツールとして使うことをスタンダードとする方向を示していますし、家庭でもスマートフォンやタブレット等を、子供たちが使う機会が増えてくるのではないでしょうか。子供たちが正しい情報モラルを身に付けられるよう、家庭と学校が一体となって、支えていかなくてはなりません。子供たちにも2月17日の全校集会で、タブレット端末を正しく使うことを話したところです。ご家庭でもぜひ話題にし、正しく活用できる力を育てていただきますようお願いいたします。

◆ タブレット端末に関するご協力　ありがとうございました。

タブレット端末の更新につきまして、パスワード設定や接続確認、ケースの準備等、保護者の皆様には数多くのご協力をいただき、本当にありがとうございました。現在は学年の実態に合わせて、持ち帰り、充電して持ってくること、学習アプリを使って家庭学習を進めることなどを少しずつ進めています。授業の中では、タブレットを日常的に使用していますし、今後も活用していきます。

●先日紹介した学習用アプリ●　ドリルパーク…反復練習等　　スクールタクト…授業での意見交換・まとめ
　　テストパーク…学習のまとめ、評価・既習事項の確認等　　チームス…連絡・オンライン等